

## プロジェクトリーダー:愛知工業大学 工学部 建部謙治教授

### 事業実績調書

(1) プロジェクト名	教員・児童を対象とした安全・安心行動計画
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	<p>本プロジェクトでは、小学校児童や教員に、地震、火災、日常災害、危機管理の安全に関わる知識や行動あるいは判断力を身に付けてもらい、ひいては保護者・市民レベルでの安全快適なまちづくりへの啓蒙が出来る体制を構築することを目的とした。</p> <p>そこで、まず児童に防災教育を行う立場である教員が、さらに質の高い指導ができるようになることを目指して研修会を行い、教材用ポスターの制作を行い、児童を対象に防災すごろくに対するアンケート調査でその成果を確認した。初年度は地震版防災すごろく、2年目は火災版防災すごろく、3年目は日常災害版すごろくのポスターを制作した。</p> <p>4年目にあたる今年度は総括の年と位置付け、学校における危機管理をテーマとし、児童が手元における危機管理クリアファイルの制作を行った。約1,000人の児童に対して危機管理クリアファイルを配布し、事後評価のアンケート調査を行った。その結果、主に学校の管理職しか見ない危機管理マニュアルを、リーフレットという形で一般の教員や児童にも周知できる効果があるとの結果を得た。</p>
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	<p>愛知工業大学・瀬戸市教育委員会・消防課・教員で協力して、以下の日程で打ち合わせを行い児童が日ごろから目にすることができるクリアファイル型の危機管理リーフレットが制作された。</p> <p>4月、7月には瀬戸市役所で、防災部会や校長会に働きかける打ち合わせを行った。8月、9月、10月には瀬戸市役所において危機管理リーフレットの制作を決定、その内容について4回の話し合いを行い、デザインを決定した。12月にはリーフレット1500部を印刷し、4校の児童約1,000人に配布し、翌年1月に使用評価に関するアンケートを実施し分析を行った。リーフレットとして危機管理に関心が持てるとおおむね好評であったが、教員からは情報量の多さや、児童からはデザインの問題が指摘された。このため、改めてリーフレットの内容とデザインを見直すこととした。改良されたリーフレットは、クリアファイルとして中身が確認できるよう表には透明部分を残し、子どもの氏名や時間割を書き込むことができる。また、裏面は優先される危機管理情報を短い文章と絵で伝えられるように工夫されている。2月には1,000部を追加印刷し、その一部を瀬戸市教育委員会を通して小学校に配布し、事後評価アンケートをお願いした。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>瀬戸市教育委員会、防災部会を通して、4種類のポスター型防災すごろくやクリアファイル型危機管理リーフレットを小学校高学年児童に配布した。今後、ポスターやリーフレットの活用の仕方や効果について継続して調査する必要がある。これが瀬戸市の子ども、ひいては市民全体に活動が広がり、地域の身近な安全安心に活用されることが望まれる。</p>